

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 2025年度通常総会 報告

日時:2025年5月18日(土) 14時から15時10分まで

会場:調布市文化会館たづくり 303・304会議室

司会:中川恭一(事務局)

1 理事長挨拶

最近の世の中の動きには、なかなか良い話が伝わってこないが、図書館は「求められる資料をきちんと提供する」健全さを持ち続けてほしいと思う。リアルな共同保存図書館の実現には到っていないが、多摩デポはそれを補う仕事をしてきたし、これからも図書館活動を有意義に支える活動をして、図書館の健全さの一端を担っていきたい。

今日は、総会後に東京都立中央図書館の移転構想発表を受けたトーク会を行う。そちらも有意義な会にできるよう、ご協力を願う。

2 総会成立(定足数)の確認

報告(事務局 鬼倉)

正会員総数:80(個人78名、団体2団体)。定款第26条により、定足数(正会員総数×1÷2)は、40。出席者16、書面表決出席者45、合計61で定足数を満たしており、総会は成立。

3 議長の選出

事務局より提案。座間直壯氏を選出。

4 書記および議事録署名人の選出

事務局より提案。書記には雨谷逸枝氏を、議事録署名人には戸室幸治氏と松尾昇治氏を選出。

5 議事

(1) 第一号議案 2024年度事業報告承認について

説明(堀 渡 事務局長)

- ・TAMALAS(多摩地域公共図書館所蔵確認システム)は、個別処理システムの利用度の高さに比し、一括処理システムの利用ライセンス申請が伸びないため、普及を目指して、東京都市町村立図書館長協議会(以下、「館長会」)図書館サービス研究会の協力の下、アンケートを行ってもらった。その結果、利用実態や要望およびライセンスの取得希望があることが分かった。
- ・各種講座は、いずれもリアルな参加者が少なかったが、2年目の多摩地域ライブラリアン講座は、応募対象を多摩デポ会員にも広げたところ、10人の受講者があった。修了レポートでは、実現を期待できるものが多く、手ごたえを感じられた。
- ・(株)カーリルとの共同研究を踏まえ、ISBNの機械的推定の検証作業をボランティアの協力も得て継続。府中市立図書館蔵書の地域資料、児童書に続き、一般書(9類=文学)について行った。検証して推定できた結果を同館にお渡しした。この検証作業の方法は安定してきた。
- ・図書館資料の里親探し事業は、提供の申し出をいただくと丁寧に調査を行って募集をしている。毎回反応があり、確かな手ごたえを感じている。
- ・県域単位の共同保存の取り組み状況について、全国の県立図書館のホームページを広く閲覧して調査するということを3年間続けて行い、都度、「多摩デポ通信」で報告している。この報告については、日本図書館協会資料保存委員会の発行する「ネットワーク資料保存」への転載依頼も継続している。
- ・12月中旬に東京都立中央図書館を渋谷区に新築移転するという構想が発表され、2月にパブリックコメントの募集があった。締め切り間際になったが、3点にわたる意見書を提出した。

- ・多摩デポ会員は、設立当初の約150名・団体に比べ会員数が減少し、現役会員の比率も低くなっているが、各事業そのものは周知されており、現場とのつながりはできている。会員増にどう結びつけるかは依然として課題である。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(2) 第二号議案 2024年度決算報告及び監査報告承認について

説明(雨谷逸枝 会計)

- ・収入では、多摩地域ライブラリアン講座の受講者から入会者を迎えることができたが、一方で様々な理由で退会者もあり、計画通りの会費収入は得られなかった。新たな自治調査会資料室の構想を作成する有識者会議に委嘱された多摩デポ会員の方々から、多額の寄付をいただいたため、寄附金が計画を大きく上回った。
- ・支出で大きいものは、多摩地域ライブラリアン講座を運営するための事務と会員外講師への謝礼、および、10月からの郵便料金大幅値上げによる通信運搬費。事業費の旅費交通費には、講座講師への実費相当および里親成立本の運搬費を含む。
- ・事務所の水光熱費の節約、印刷物は可能な宛先へは直接持参、会費等はできるだけ直接手渡しでいただいて手数料を節約するなど、経費の節減に努めた。
- ・新たなブックレットの発行が年度末近くになったため、その販売収益が大きく反映されるのは、来年度となる。リアルな講座を2回開催した際には、既刊分の販売もできた。
- ・法人税についてご質問をいただいたが、多摩デポは「ブックレット発行・販売」という事業を持つため、赤字であっても法人住民税の納付は必要(事業税の納付はなし)。
- ・今回、議案書に貸借対照表は載せていない。後日、ホームページで公告するので、それをご覧いただきたい。

監査報告(山崎明子 監事)

5月2日に手嶋監事と共に2024年度分の会計監査を実施した。いずれも適法かつ妥当と認める。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(3) 第三号議案 2025年度事業計画決定について

説明(堀 渡 事務局長)

- ・共同保存の実現を目指し、基本的にこれまで行ってきた活動を続けていく。
- ・都立中央図書館の移転新設にあたっては、館長会との連携の下で、都立を含めた共同保存について政策提言をしていきたいが、図書館長の異動などで構成員の変動があり、踏み込んだ相談ができないのが悩ましい。努力を続ける。
- ・昨年度末の TAMALAS 一括処理システムについてのアンケートの結果、ライセンス申請が増加している。今後、利用方法について丁寧に案内していき、ライセンスの一層の普及と活用実績の増加を目指す。
- ・2025年度は、総会記念講演会を行わず、「都立中央図書館の移転構想と多摩デポの意見表明について《トーク会》」を開催することにした。都立図書館が移転に向かう中で、図書館協力の中心という役割を今後どう担っていくのか注視していきたい。
- ・コロナ禍は過ぎたが、リアルな講座の参加者が戻らない。そのため多摩デポ講座については、会員に早い時期にアンケートを行って企画を考えることにする。図書館職員向けの多摩デポ実践講座は、「TAMALAS 一括処理システムの普及啓発の講座」「図書館蔵書ラストワンプロジェクト(仮

称)」の学習会と「地域資料・行政資料のデジタル保存について」の講座を考えている。多摩地域ライブラリアン講座は、これまでの受講者にも協力を求め、第3回を開催する。

- ・多摩デポブックレットは、制作費の高騰のため今年度は発行を見合わせる。
- ・TAMALASの検索精度を高めて活用度を上げるため、ISBN未記載の蔵書データへのISBNの機械的推定に参加する自治体を募集する。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(4) 第四号議案 2025年度活動予算決定について

説明(雨谷逸枝 会計)

- ・会員の高齢化に伴い退会者が微増しているが、講座等の参加者で新たな入会者もあることから、会費収入は会員増を見込んだ額とした。受取寄附金は、例年並みの30万円を見込んだ。都立中央図書館の移転新築計画が発表されたのに伴い、「都立を巻き込んだ共同保存図書館実現」のためにやれることは全てやりたいという活動方針の下、多摩地域ライブラリアン講座・多摩デポ講座・里親探し・多摩デポ統合検索システム研究に関する事業が活動の中心となる。ブックレットの新刊発行は見合わせることにする。収入増に向け、皆さんのご協力をお願いしたい。
- ・人件費は今年度もやはりゼロのままとする。
- ・郵送料、通信運搬費等々の値上げが次々行われているため、経常費用のうち通信運搬費以外は、2024年度実績見合いの予算とした。
- ・多摩地域ライブラリアン講座ほか、講座講師への謝礼は外部講師にのみ支出する。
- ・収入から支出を引くと10万3,100円。ここから東京都と調布市への法人住民税計7万円を払うと、次期繰越財産額は2,565,062円となる。一見、多額の財産があるように見えるが、大部分を占めるのは既刊ブックレットの在庫という財産であり、販売を進めて在庫の縮小に努め、経常費用として使えるようにすることが必要である。
- ・助成金については、申請手続きや報告などにかかる労力の捻出が難しいが、可能なものがあれば取り組みたいと思うので、皆さんからのアドバイスを願う。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(5) 第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について

説明(堀 渡 事務局長)及び、新理事候補の挨拶

- ・定款では理事・監事の任期は二年で、今年度は改選の時期である。また、理事の定数は10名以内のため、現状より1名増員できる。そこで、現在の理事・監事は全員に重任してもらい、昨年度の通常総会記念講演会や講座の講師をしていただいている田中久徳氏に新たに理事に加わっていただくことを提案する。
- ・(田中氏自己紹介)昨年度は、講演の機会をいただき、ブックレットも刊行していただいた。NDL在職中、図書館フォーラム等、資料保存関係の仕事にも関わってきて、多摩デポの活動については知っていた。NDLは色々な意味でもっと全国の公立図書館と力をあわせて仕事を進めていくべきだと考えている。公立図書館の資料の共同保存という取り組みが全国のモデルになってほしいと思う。多摩デポの活動に加わって、新しい図書館活動の展開を目指したい。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

6 議長及び書記の解任

7 理事長挨拶

今日の総会で全ての議案に賛同していただいた。冒頭でも少しお話したが、図書館がかなり多様化して、本来の筋を外れているような動きをあちこちで見かける。これからの数年が正念場かと思うので、本来の図書館のあり方というのを今一度確認していきたい。新しい理事も迎えられ、新年度の活動を進めていく。引き続き会員の皆様のご協力を願う。

以上

※総会終了後、例年行っている記念講演に代え、「都立中央図書館の移転構想と多摩デポの意見表明について《トーク会》」を開催した(15時30分から16時20分まで)。これには、他県からの参加者や会員外の参加者を含む20名の参加があった。